

令和 7 年度

石川県立歴史博物館運営審議会資料



いしかわ赤レンガミュージアム

石川県立歴史博物館

ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

目 次

議題1 令和7年度事業の執行状況について

1 展覧会開催事業	1
2 その他事業	3
(1) 普及事業	
(2) 資料整備活用事業	
(3) 石川の歴史遺産セミナー事業	
(4) 文化財レスキュー事業	

議題2 令和8年度事業計画及び当初予算について

1 展覧会開催事業	12
2 その他事業	15
(1) 普及事業	
(2) 資料整備活用事業	
(3) 石川の歴史遺産セミナー事業	
3 令和8年度当初予算	17

(附属資料)

- 1 入館者数調べ
- 2 資料整備活用事業

議題 1

令和7年度事業の執行状況について

1 展覧会開催事業

(1) 春季特別展

(3,784人)

テーマ：「歴史をつなぐ—石川を語るれきはくコレクション—」											
会場：特別展示室・企画展示室											
期間：令和7年4月26日（土）～6月8日（日）【44日間】											
内容：博物館が保存する資料は、一つひとつが歴史を雄弁に語るモノであり、それらをつなぎ合わせることで石川の歴史をより深く知り、豊かな地域像を描くことができる。石川の歴史を語る資料の魅力と、文化財を保存・継承し、そこから得られた知見を地域に還元するという、歴史博物館の大切な役割を広く発信することを目的に、近年新しく収蔵した資料を中心に、関連する館蔵資料を結び付け、多彩なテーマで紹介した。											
展示構成：序章 歴博でつながるコレクション 第1章 藩を語る 第2章 地域を語る 第3章 近代を語る 第4章 技を語る 終章 語りだすコレクション—新しいテーマの可能性—											
主な展示品（新収蔵・すべて当館蔵）： <table border="0"> <tr> <td>・珠洲研磨壺</td><td>室町時代（15世紀）</td></tr> <tr> <td>・石川県指定文化財 白山行人札</td><td>文明16年（1484）17年（1485）</td></tr> <tr> <td>・本阿弥光悦書状（中川宗半宛）</td><td>慶長期（1596～1614）</td></tr> <tr> <td>・唐子引台（大野弁吉作）</td><td>江戸時代末期（19世紀）</td></tr> <tr> <td>・紀尾井町事件裁判記録</td><td>明治11年（1878）</td></tr> </table>		・珠洲研磨壺	室町時代（15世紀）	・石川県指定文化財 白山行人札	文明16年（1484）17年（1485）	・本阿弥光悦書状（中川宗半宛）	慶長期（1596～1614）	・唐子引台（大野弁吉作）	江戸時代末期（19世紀）	・紀尾井町事件裁判記録	明治11年（1878）
・珠洲研磨壺	室町時代（15世紀）										
・石川県指定文化財 白山行人札	文明16年（1484）17年（1485）										
・本阿弥光悦書状（中川宗半宛）	慶長期（1596～1614）										
・唐子引台（大野弁吉作）	江戸時代末期（19世紀）										
・紀尾井町事件裁判記録	明治11年（1878）										
関連事業：記念講演会、展示解説、ワークショップ											

(2) 夏季特別展

(7,949 人)

テーマ：「未来へつなぐー能登半島地震とレスキュー文化財ー」																				
期 間：令和7年7月26日(土)～ 8月31日(日)【37日間】																				
会 場：特別展示室・企画展示室																				
内 容：博物館の災害時の使命として、被災した文化財の救出・継承がある。令和6年能登半島地震の発災以来、文化財レスキュー事業により、多くの文化財が救出された。本展ではそれらの被災文化財を展示することを通して、被災地の歴史や文化を紹介するとともに、文化財の次代への継承を考えるきっかけとした。																				
展示構成：プロローグ 「被災文化財」との出会い 第1章 発見された地域の歴史 第2章 生業からみる能登 第3章 能登の宗教文化 第4章 民具が語る能登 エピローグ 災害を未来に伝える																				
主な展示品： <table border="0"> <tr> <td>・木造薬師如来坐像</td><td>平安時代(11世紀)</td><td>輪島市河井町・重蔵神社蔵</td></tr> <tr> <td>・輪島漆器関係資料</td><td>明治時代～昭和時代</td><td>輪島市・個人蔵</td></tr> <tr> <td>・堂端家文書</td><td>江戸時代～昭和時代</td><td>個人蔵</td></tr> <tr> <td>・『累年雑記』(穴田新助著)</td><td>天保13年(1842)</td><td>当館蔵</td></tr> <tr> <td>・旧宗玄家下張り文書</td><td>江戸時代～明治時代</td><td>個人蔵</td></tr> <tr> <td>・陸軍中野学校同窓生寄書き</td><td>昭和時代</td><td>個人蔵</td></tr> </table>			・木造薬師如来坐像	平安時代(11世紀)	輪島市河井町・重蔵神社蔵	・輪島漆器関係資料	明治時代～昭和時代	輪島市・個人蔵	・堂端家文書	江戸時代～昭和時代	個人蔵	・『累年雑記』(穴田新助著)	天保13年(1842)	当館蔵	・旧宗玄家下張り文書	江戸時代～明治時代	個人蔵	・陸軍中野学校同窓生寄書き	昭和時代	個人蔵
・木造薬師如来坐像	平安時代(11世紀)	輪島市河井町・重蔵神社蔵																		
・輪島漆器関係資料	明治時代～昭和時代	輪島市・個人蔵																		
・堂端家文書	江戸時代～昭和時代	個人蔵																		
・『累年雑記』(穴田新助著)	天保13年(1842)	当館蔵																		
・旧宗玄家下張り文書	江戸時代～明治時代	個人蔵																		
・陸軍中野学校同窓生寄書き	昭和時代	個人蔵																		
関連事業：展示解説、ワークショップ、石川の歴史遺産セミナー																				

(3) 秋季特別展

(5,199 人)

テーマ：「花開く九谷ー19世紀加賀藩のやきもの生産ブームー」		
期 間：令和7年9月27日(土)～ 11月9日(日)【44日間】		
会 場：特別展示室・企画展示室		
内 容：江戸時代後期には、技術の広がりや諸藩の産業振興策の影響により列島各地で多くの窯が成立し、加賀藩や支藩の富山藩・大聖寺藩でも多くのやきものが生産された。本展では、それぞれの窯の伝世品に加え、窯跡や城下町遺跡からの出土資料、窯の経営にかかわる古文書などの多様な資料を紹介し、江戸時代後期の加賀・能登での陶磁器生産の実態にせまった。		
展示構成：プロローグ 18世紀以前の加賀藩やきもの事情 第1章 やきものづくり、復活へー春日山開窯ー 第2章 軌道にのる生産ー若杉窯の発展ー 第3章 ブーム来たるー生産地の広まりー エピローグ 明治への胎動		

主な展示品：		
・加賀市九谷1号窯跡出土陶磁器・窯道具 （公財）石川県埋蔵文化財センター蔵	江戸時代前期（17世紀後半）	
・三彩鉢 青木木米作 春日山窯 サントリー美術館蔵	文化4～5年（1807～1808）	
・染付鴛鴦図芙蓉手平鉢 若杉窯 石川県立美術館蔵	江戸時代後期（19世紀）	
・市指定文化財 陶器方へ雇置人々 石川県九谷焼美術館蔵（吉田屋文書）	江戸時代後期（19世紀前半）	
・町指定文化財 色絵雲龍文香炉 梨谷小山窯 光済寺蔵	天保4年（1833）	
・色絵金襴手龍文大皿 永楽和全作 東京国立博物館蔵	慶応元年（1865）	
関連事業：記念講演会、展示解説、ワークショップ、石川の歴史遺産セミナー		

（4）貸館

ゴジラ博 in 金沢 令和8年1月17日（土）～3月22日（日）

主催：ゴジラ博 in 金沢実行委員会 共催：北陸放送・エフエム石川 後援：北國新聞社

2 その他事業

（1）普及事業

ア．各種行事・講座

○展示解説（要観覧料）

特別展	開催日	講師・担当者	参加者数
春 季	4月27日（日）	林 亮太（学芸主任） 吉原 徹平（学芸員） 大井 理恵（学芸課長）	17 名
	6月 9日（日）	林 亮太（学芸主任） 齋藤 仁志（学芸主任） 中井 夏帆（学芸員）	6 名
夏 季	7月27日（日）	中井 夏帆（学芸員） 野村 将之（学芸主任）	21 名
	8月 8日（金）	吉田 朋生（学芸員） 中井 夏帆（学芸員） 大門 哲（学芸主幹）	21 名
	8月20日（水）	吉田 朋生（学芸員） 中井 夏帆（学芸員） 齋藤 仁志（学芸主任）	46 名
秋 季	9月28日（日）	野村 将之（学芸主任）	12 名
	10月19日（日）		5 名
	10月29日（水）		10 名

○講演会（無料/要事前申込）

開催日	概 要	参加者数
5 月 31 日(土)	春季特別展 記念講演会 「大野弁吉と加賀藩の技術文化」 講師：本康 宏史 氏（金沢星稜大学経済学部特任教授）	4 4 名
10 月 4 日(土)	秋季特別展 記念講演会 「ブランドイメージとしての《九谷》の成立」 講師：今井 敦 氏（東京国立博物館特任研究員）	4 0 名

○れきはくゼミナール（無料/事前申込不要）

月 1 回程度 土曜日実施

回 数	開催日	参加者数
第 1 回	6 月 28 日	3 9 名
第 2 回	7 月 19 日	4 1 名
第 3 回	8 月 23 日	3 0 名
第 4 回	9 月 20 日	1 8 名
第 5 回	10 月 25 日	9 名

回 数	開催日	参加者数
第 6 回	11 月 22 日	3 2 名
第 7 回	12 月 13 日	2 7 名
第 8 回	2 月 14 日	4 4 名
第 9 回	3 月 14 日	- 名

合計 2 4 0 名

○いしかわ歴史講座（無料/事前申込不要）

11～2 月 水曜日実施

回 数	開催日	参加者数
第 1 回	11 月 5 日	2 1 名
第 2 回	11 月 19 日	2 2 名
第 3 回	12 月 3 日	2 7 名
第 4 回	12 月 17 日	5 3 名

回 数	開催日	参加者数
第 5 回	1 月 14 日	4 4 名
第 6 回	1 月 28 日	3 1 名
第 7 回	2 月 4 日	4 4 名
第 8 回	2 月 18 日	2 4 名

合計 2 6 6 名

○古文書講座（無料/事前申込必要）

前期（5～6 月）、中期（1 1 月）、後期（2 月）実施

回 数	開催日	参加者数
第 1 回	5 月 21 日	4 5 名
第 2 回	6 月 4 日	4 2 名
第 3 回	11 月 13 日	3 6 名

回 数	開催日	参加者数
第 4 回	11 月 20 日	3 3 名
第 5 回	2 月 12 日	5 1 名
第 6 回	2 月 26 日	4 7 名

合計 2 5 4 名

○ワークショップ・イベント（無料/要事前申込（ワークショップ））

開催日	概 要	参加者数
4月26日(土)	ワークショップ 「からくり人形を動かしてみよう！」 講師：岡崎 道子（学芸主任）他5名	10 名
5月3日(土・祝)		26 名
5月17日(土)		13 名
6月1日(日)		42 名
5月18日(日)	ワークショップ 「レトロ写真をつくってみよう！」 講師：吉岡 由哲 氏 （東京国立博物館文芸研究部文化財写真技師）	26 名
8月1日(金)	ミュージアムコンサート 「オーケストラ・アンサンブル金沢 楽団員による弦楽四重奏」 出演：原田 智子 氏（第一ヴァイオリン） 江原 千絵 氏（第二ヴァイオリン） 古宮山 由里 氏（ヴィオラ） 富田 祥 氏（チェロ）	60 名
8月3日(日)	ワークショップ 「いざという時役に立つ！防災グッズ」 講師：石川県防災士会	26 名
8月9日(土)		23 名
8月11日(月・祝)		22 名
11月2日(日)	ワークショップ 「上絵付に挑戦してみよう！」 講師：板屋 成美 氏（卯辰山工芸工房 工房専門員） 中谷 まこ 氏（九谷焼上絵付作家）	23 名

イ. 案内解説・レファレンス

○案内解説を希望する団体対しては、見学前に解説員が当館の概要と見どころを説明している。（予約制）

また、個人に対しては、無料の音声ガイドを勧めている。

※専門的な内容及び学術関係の問い合わせは学芸員が対応している。

区 分	利用件数	備 考
案内解説	90件	解説員対応82件 学芸員対応 8件
音声ガイド	371件 (※)	4か国語（日英中韓）対応 資料60点分の解説を収録 1点あたり約3分

(※) 令和6年度より、音声ガイドが個人携帯電話にて利用可能となったため、携帯電話による利用件数はカウントされない。

○学校団体入館者は、展示室を班別行動で見学することが多いため、展示室で利用可能なワークシート「いしかわれきはくガイド(A4判4Pカラー)」を配付している。なお、ホームページに掲載しており、ダウンロードも可能なため、事前に児童生徒に持たせ、来館する学校も増加している。

区 分	入館数
学校(小・中・高・特別支援) 児童生徒入館者数	204校 6,296名
一般団体入館者数	69団体 1,697名
外国人入館者数 (新型コロナ感染拡大前[R1年度])	50ヵ国 2,737名 (47ヵ国 1,288名)

ウ. れきはくメイト

○会費：年額1,500円 会員数：147名

○情報紙「れきはくメイト情報」配布（7回発行）、展覧会や募集案内など

○れきはくメイトイベント

開催日	概 要	参加者数
6月7日(土)	初夏の歴史散歩	12名
11月24日(月)	秋の歴史散歩	14名

エ. 連携事業

開催日時	概 要	会 場
4 月～	文化財レスキュー関連パネル展示 「令和 6 年能登半島地震によせて」	当館ギャラリー、 ウェルカムラウンジ
6 月 18 日(水) 6 月 19 日(木)	職場体験 中学生 4 名参加	当館 ワークショップルーム等
7 月 8 日(火) ～7 月 24 日(木)	ミニ展示 「能登半島地震とレスキュー文化財」	県立図書館 屋内広場
7 月 19 日(土)	学芸員トーク 「能登半島地震とレスキュー文化財」 講師：吉田 朋生 (学芸員)	県立図書館 だんだん広場
8 月 3 日(日)	学芸員トーク 「能登半島地震とレスキュー文化財」 講師：齋藤 仁志 (学芸主任)	〃
8 月 19 日(火)	県庁インターンシップ 大学生 7 名参加	当館 ワークショップルーム等
9 月 4 日(木)	金沢ボランティア大学校歴史講座 講師：鷹野 恵 (普及課長) 31 名参加	当館 ワークショップルーム
毎週土・日曜日	レトロ建築見学会 (文化振興課) 講師：ボランティアガイド	当館 ウェルカムラウンジ等
随時	体験用資料貸出 希望により、学校や高齢者介護施設等に体 験用資料 (実物・模型) を貸出	—

オ. 入館者調査

○通年実施のアンケート調査 一般個人及び団体入館者を対象

1 月末までの主な調査結果 ※ () は前年度

・ 4 段階評価による評価

区 分	良い	まあまあ良い	あまり良くない	良くない
特別展	76.6% (77.1%)	21.2% (20.7%)	2.2% (2.2%)	0.0% (0.0%)
常設展	85.1% (86.9%)	13.7% (12.4%)	0.6% (0.7%)	0.6% (0.0%)
職員の対応	89.7% (88.9%)	9.1% (9.7%)	0.9% (0.7%)	0.3% (0.7%)

○入館者の主な意見（自由記述欄）

常設展	・映像・ジオラマと視覚的に訴える展示が多く飽きなかった ・説明文が長すぎないのも良い ・能登の祭りを震災後、テレビでよく見たので展示が見られて良かった ・祭礼体感シアターの迫力に感激しました。他にも如月祭の展示や映像なども非常に興味深かったです ・前に来た時よりも、かなり見ごたえ、読み応えがある展示になっていて、石川、金沢の歴史をよりよく知ることができました ・展示の中に入り込めて、当時の雰囲気を感じることが出来ました ・教科書での学習だけでは深めることのできない知識や感性を養うことが出来たと思います ・参勤交代の大名行列に子供たちが興味をととても持っていました ・英語表記を充実させてもらいたい ・体験できるプログラムがもっと欲しい
春季特別展 「歴史をつなぐー石川を語るれきはくコレクション」	・学芸員のみなさんの情熱を感じられた。博物館の活動に興味を湧いた ・石川県らしさを感じ、ふるさと愛や石川の文化などを知れた ・貴重な資料をたくさん見ることが出来た ・博物館の役割に踏み込んだテーマで関心を持って拝見しました ・仏壇などの伝統工芸品がとても興味深かったです ・資料の統一性があまり感じられなかった
夏季特別展 「未来をつなぐー能登半島地震とレスキュー文化財」	・文化財レスキューの存在は知ってはいたが、詳しく知れて良かった。文化財や古文書など大切なものが、散逸せず守られて良かった。歴博の方たちをはじめ地域の専門家のおかげです ・文化財レスキュー事業の必要性を改めて感じました ・自身の当時の事が思い出され切なかった。助けられた文化財が保存されて良かった ・当時を伝える、次代に残す取り組みが良いと思った ・被災地に住む者として、今回の展示は涙なしには観られませんでした。文化財レスキューに尽力されている皆さまに心より敬意を表します
秋季特別展 「花開く九谷ー19世紀加賀藩のやきものの生産ブームー」	・九谷焼が古くから存在していたことや、様々な模様があることなど知っているだけで楽しむことが出来た ・6年生では江戸時代まで学習していたので、児童は学んだことと比べながら、実物の美しさや趣を感じていました ・やきものの歴史と技法が学べた ・「半磁胎」や「見込」など専門用語の解説が欲しい ・子供には少し難しい

○来館者の居住地 ※（ ）は前年度 【中部：富山・福井を含む】

県内	34.6%	(38.4%)	(県外内訳)	
県外	56.2%	(55.7%)		
海外	9.2%	(5.9%)	中部	37.9% (37.5%)
			関東	31.6% (34.6%)
			関西	18.1% (19.0%)
			その他	12.4% (8.9%)

○歴博情報の入手手段 ※（ ）は前年度

新聞	1.8%	(2.9%)	チラシ ポスター	11.0%	(8.7%)
テレビ	1.8%	(3.3%)	X(旧 twitter)	3.3%	(3.3%)
雑誌	4.8%	(6.5%)	ホームページ	32.1%	(30.7%)
観光案内所	6.8%	(8.5%)	情報サイト	9.5%	(10.0%)
パンフレット	12.2%	(14.2%)	その他	16.7%	(11.9%)

カ. 広報

○マスメディア等を活用した広報活動

- ・ 県戦略広報課が持つ広報媒体（新聞、テレビ、ラジオ）の活用
- ・ 当館ホームページ、テレビCMスポットでの広報、案内リーフレット、広報誌「石川れきはく」、ポスター、チラシなどの配布
配布先：県内のマスコミ・情報メディア、公共施設、宿泊施設、社会福祉施設、高齢者介護施設、観光案内所、道の駅、商店、北陸三県の旅行会社、全国の文化施設、主要情報メディアなど

○インターネットを活用した広報活動

- ・ 当館ホームページ、X（旧 Twitter）、各種情報サイトに展覧会情報やイベント情報を掲載
- ・ 10月から Instagram 運用を開始し、講座やイベント、特別展の広報に活用

○共同セールス

- ・ 当館、県立美術館、国立工芸館、石川四高記念文化交流館及び県立伝統産業工芸館の5館共同で広報宣伝活動を実施
- ・ 北陸三県の教育委員会を対象として、5館の職員が地域を分担して直接訪問又は郵送にて管内小・中学校へのチラシ・パンフレット等の配布を依頼。併せて旅行関連業者へもポスター・パンフレット等を配布
- ・ 体験学習コースなど各施設での実施事業を説明。幅広い活用を呼びかけ

(2) 資料整備活用事業

ア. 資料整備

- 狩野祐益筆「花鳥図幅」(江戸時代)・「軍楽隊記念写真」(明治時代)の2点を購入
- 歴史・考古の資料8件217点の寄附を受納(附属資料参照)
- 「版木」2点(室町時代、白山市中宮区旧蔵)の保存修復を実施
(委託先:公益財団法人元興寺文化財研究所)
- 新規収蔵資料を中心に、二酸化炭素による館蔵資料の殺虫処理を実施

イ. 収蔵庫整備

- 柳田収蔵庫(能登町)から金沢中央高校収蔵庫へ外部収蔵庫を移転
(2ヶ年計画の1年目)
- 本館と金沢中央高校収蔵庫の環境調査(文化財害虫・浮遊菌等測定)を実施
- 文化財レスキュー事業により被災地から救出した資料376点を保管

ウ. 資料貸出・特別利用

- 17ヶ所(県内12、県外5)の博物館に館蔵資料248点を貸出
(附属資料参照)
- 館蔵資料の特別利用(閲覧、出版物掲載等)状況(1月末現在)

特別利用内訳	件数	点数
閲覧・撮影	33件	375点
写真掲載・放映	99件	181点
合 計	132件	556点

(3) 石川の歴史遺産セミナー事業

- 県内外の関係機関及び研究者の協力により石川県の新しい歴史像の創造に向けた歴史的課題に取り組み、博物館の情報発信機能を強化するとともに、地域の人々が身近な歴史遺産に学び、豊かな文化活動ができるよう文化力向上を図る。

第41回「人びとは災害とどう向き合ってきたのかー歴史学の視点からー」

① 令和7年8月2日(土)

「日本古代の災害と社会」

今津 勝紀 氏(岡山大学文明動態学研究所長) 参加者: 33名

② 令和7年8月10日(日)

「近世中期の気候変動と能登奥郡」

武井 弘一 氏(金沢大学人間社会研究域学校教育系教授) 参加者: 38名

③ 令和7年8月24日(日)

「広域複合災害としての関東大震災ー都市と農山漁村の被害と復興ー」

土田 宏成 氏(聖心女子大学現代教養学部史学科教授) 参加者: 29名

第42回「やきものにみる加賀藩の産業」

① 令和7年10月11日（土）

「再興九谷ーその新たなはじまりと系譜ー」

藤田 邦雄 氏（元（公財）石川県埋蔵文化財センター所長） 参加者：29名

② 令和7年10月18日（日）

「高松瓦の生産について」

袖吉 正樹 氏（加能地域史研究会副代表） 参加者：27名

③ 令和7年11月1日（日）

「窯業史から見る九谷」

佐々木 達夫 氏（金沢大学名誉教授） 参加者：30名

（4）文化財レスキュー事業

○文化財レスキュー対応件数（発災～R8.1月末）

・県全体 322件（うち完了277件）

（うち、当館対応件数：86件（うち完了84件））

議題 2

令和8年度事業計画及び当初予算について

1 展覧会開催事業

(1) 春季特別展

テーマ：「鷹と加賀前田家」																					
会場：特別展示室・企画展示室																					
期間：令和8年4月25日（土）～6月7日（日）【44日間】																					
内容：猛禽類の中でも鷹は各時代の権力者に愛好され、次第に権威性を帯びた特別な動物となっていた。 近世の将軍・大名らは領内に鷹場を設定し、頻繁に鷹狩をおこなったが、加賀前田家も例外ではなく鷹好きの当主が多かった。鷹狩で用いる鷹の飼育・調教は鷹匠が担ったが、鷹匠は鷹の餌の確保を担った餌指役、鷹場の環境管理を担った鳥見役、巣鷹の管理・献上を担った鷹巣見役などと連携し、前田家の鷹狩を支えていた。 また当時、鷹は贈答の対象となっており、鷹の産地をもつ大名は定期的に将軍へ鷹を献上し、将軍はその鷹で鷹狩をして、獲物を御三家・前田家などの有力大名に下賜した。 これらの大名は、将軍から「御鷹」を下賜される立場でもあった。大名は「御鷹」を用いて鷹狩をおこない、獲物を将軍に献上した。このような儀礼は主従関係を確認する上で重要な役割を果たし、武家社会の秩序として機能していた。 本展では加賀前田家の鷹狩・鷹関係史料を読み解き、鷹狩や鷹の飼育・調教の実態、鷹儀礼をめぐる前田家の位置づけを明らかにしつつ、鷹をめぐる前田家の歴史を繙いていく。																					
展示構成：プロローグ 江戸時代における鷹狩 第1章 鷹場と環境 第2章 藩主と鷹狩 第3章 鷹狩を支えた人々 第4章 鷹を飼う 第5章 鷹をとりまく儀礼 エピローグ 近代へつづく鷹狩																					
主な展示品： <table><tr><td>・架鷹図屏風 王伯子賛</td><td>江戸時代（17世紀）</td><td>公益財団法人前田育徳会蔵</td></tr><tr><td>・鷹道具 鈴板</td><td>江戸時代（19世紀）</td><td>公益財団法人前田育徳会蔵</td></tr><tr><td>・御鷹目録</td><td>江戸時代</td><td>公益財団法人前田育徳会蔵</td></tr><tr><td>・白鷹図 佐々木泉玄筆</td><td>万延元年（1860）</td><td>東京国立博物館蔵</td></tr><tr><td>・鷹羽根図解</td><td>元禄5年（1692）</td><td>個人蔵</td></tr><tr><td>・御鷹場御定及潟地御絵図</td><td>天保14年（1843）</td><td>金沢市立玉川図書館近史料館蔵</td></tr></table>				・架鷹図屏風 王伯子賛	江戸時代（17世紀）	公益財団法人前田育徳会蔵	・鷹道具 鈴板	江戸時代（19世紀）	公益財団法人前田育徳会蔵	・御鷹目録	江戸時代	公益財団法人前田育徳会蔵	・白鷹図 佐々木泉玄筆	万延元年（1860）	東京国立博物館蔵	・鷹羽根図解	元禄5年（1692）	個人蔵	・御鷹場御定及潟地御絵図	天保14年（1843）	金沢市立玉川図書館近史料館蔵
・架鷹図屏風 王伯子賛	江戸時代（17世紀）	公益財団法人前田育徳会蔵																			
・鷹道具 鈴板	江戸時代（19世紀）	公益財団法人前田育徳会蔵																			
・御鷹目録	江戸時代	公益財団法人前田育徳会蔵																			
・白鷹図 佐々木泉玄筆	万延元年（1860）	東京国立博物館蔵																			
・鷹羽根図解	元禄5年（1692）	個人蔵																			
・御鷹場御定及潟地御絵図	天保14年（1843）	金沢市立玉川図書館近史料館蔵																			
関連事業：リレー講義、展示解説、ワークショップ																					

(2) 夏季特別展

テ ー マ：「発見！れきはくの生きものたち」 / 「れきはくコレクション 2025」	
期 間：令和8年7月25日(土)～ 8月30日(日)【37日間】	
会 場：特別展示室・企画展示室	
内 容：気候変動の深刻化に伴い、「自然」との向き合い方が改めて問われている現在、歴史的・民俗学的観点から、過去から現在に至るまでの人間と「自然」の関係を振り返る必要があると考える。従って本展では「生きもの」という共通テーマのもと、当館の所蔵品の中から、各分野の学芸員が選定した資料を展示する。 また、今年5月に放鳥が決まった「トキ」について、能登最後のトキ「能里」の剥製を公開するとともに、その絶滅から再生に至る過程をトピックで紹介する。 同時開催として寄附や購入により、2025（令和7年）年度に当館が収蔵した資料を一堂に公開する「れきはくコレクション2025」を開催する。	
展示構成：「発見！れきはくの生きものたち」 第1章：生きものの脅威 第2章：恵みとしての生きもの 第3章：労働力としての生きもの 第4章：生きものを象る 第5章：信仰世界と生きもの トピック展示：トキの絶滅から再生へ	
主な展示品（当館蔵）： 「発見！れきはくの生きものたち」 ・能登国採魚図絵 天保9年（1838） ・馬鋏 ・仏涅槃図 江戸時代（19世紀） ・トキ「能里」剥製 昭和時代 「れきはくコレクション2025」 ・珠洲叩中甕（寄附） 鎌倉時代前期（13世紀前半） ・穴太家文書（寄附） 16世紀後半～20世紀前半 ・狩野祐益筆 花鳥図幅（購入） 江戸時代後期（19世紀）	
関連事業：特別講座、展示解説、ワークショップ	

(3) 秋季特別展

テ ー マ：「国立民族学博物館コレクション 世界のかわいい衣装」																																															
期 間：令和8年9月19日（土）～11月8日（日）【51日間】																																															
会 場：特別展示室・企画展示室																																															
内 容：本展では国立民族学博物館が所蔵するコレクションの中から「かわいい」をキーワードに選んだ1920年代から現在までの衣装や装身具約180点を公開する。 さまざまな気候や風土、社会や文化のなかで育まれた世界の民族衣装、その魅力は、鮮やかな色彩、地域独特の文様、形や着方の多様さにある。また、そこには生活を彩る織りや染め、刺繍、レースなどの多岐にわたる手仕事をみることができる。衣装は単に身体を覆うものではなく、その土地に生きる人びとの知恵や創意工夫、技術によって現在まで伝承され、精神性や文化を表象する非常に重要なものと考えられる。それらを身につける人びとに思いを馳せることは、世界の多様な生活や文化を知ることにつながるとともに、私たちの装いについて見つめ直す機会となる。 よって今回は子供の晴れ着や祭礼衣装など、石川県の「かわいい衣装」をあわせて展覧し、衣装が制作・使用された背景や、刺繍や染などの技術を通して、地域の衣文化を再検討したい。																																															
展示構成：第1章 ヨーロッパ 第2章 アジア 第3章 アメリカ 第4章 オセアニア 第5章 西アジア・アフリカ 第6章 わたしたちの「かわいい」衣装																																															
主な展示品： <table border="0"> <tbody> <tr> <td>・刺繍入りエプロン</td><td>ブルガリア</td><td>1978年収集</td><td>国立民族学博物館蔵</td></tr> <tr> <td>・カットワークの上衣</td><td>スロバキア</td><td>1984年収集</td><td>国立民族学博物館蔵</td></tr> <tr> <td>・ビーズつき帽子</td><td>ルーマニア</td><td>1997年収集</td><td>国立民族学博物館蔵</td></tr> <tr> <td>・ミーチャ（小袋）</td><td>ネパール</td><td>1974年収集</td><td>国立民族学博物館蔵</td></tr> <tr> <td>・女性用婚礼衣装</td><td>インド</td><td>2002年収集</td><td>国立民族学博物館蔵</td></tr> <tr> <td>・緋の上衣</td><td>ウズベキスタン</td><td>1980年収集</td><td>国立民族学博物館蔵</td></tr> <tr> <td>・アップリケの上衣</td><td>パナマ</td><td>1976年収集</td><td>国立民族学博物館蔵</td></tr> <tr> <td>・真珠母貝の首飾り</td><td>オーストラリア</td><td>1991年収集</td><td>国立民族学博物館蔵</td></tr> <tr> <td>・イシコティ（肩掛け）</td><td>南アフリカ</td><td>1996年収集</td><td>国立民族学博物館蔵</td></tr> <tr> <td>・百徳 明治時代（19～20世紀）</td><td>金沢市・真成寺蔵</td><td></td><td>重要有形民俗文化財</td></tr> <tr> <td>・黒島天領祭・女兒の衣装</td><td>昭和30～40年代</td><td></td><td>金沢市・個人蔵</td></tr> </tbody> </table>				・刺繍入りエプロン	ブルガリア	1978年収集	国立民族学博物館蔵	・カットワークの上衣	スロバキア	1984年収集	国立民族学博物館蔵	・ビーズつき帽子	ルーマニア	1997年収集	国立民族学博物館蔵	・ミーチャ（小袋）	ネパール	1974年収集	国立民族学博物館蔵	・女性用婚礼衣装	インド	2002年収集	国立民族学博物館蔵	・緋の上衣	ウズベキスタン	1980年収集	国立民族学博物館蔵	・アップリケの上衣	パナマ	1976年収集	国立民族学博物館蔵	・真珠母貝の首飾り	オーストラリア	1991年収集	国立民族学博物館蔵	・イシコティ（肩掛け）	南アフリカ	1996年収集	国立民族学博物館蔵	・百徳 明治時代（19～20世紀）	金沢市・真成寺蔵		重要有形民俗文化財	・黒島天領祭・女兒の衣装	昭和30～40年代		金沢市・個人蔵
・刺繍入りエプロン	ブルガリア	1978年収集	国立民族学博物館蔵																																												
・カットワークの上衣	スロバキア	1984年収集	国立民族学博物館蔵																																												
・ビーズつき帽子	ルーマニア	1997年収集	国立民族学博物館蔵																																												
・ミーチャ（小袋）	ネパール	1974年収集	国立民族学博物館蔵																																												
・女性用婚礼衣装	インド	2002年収集	国立民族学博物館蔵																																												
・緋の上衣	ウズベキスタン	1980年収集	国立民族学博物館蔵																																												
・アップリケの上衣	パナマ	1976年収集	国立民族学博物館蔵																																												
・真珠母貝の首飾り	オーストラリア	1991年収集	国立民族学博物館蔵																																												
・イシコティ（肩掛け）	南アフリカ	1996年収集	国立民族学博物館蔵																																												
・百徳 明治時代（19～20世紀）	金沢市・真成寺蔵		重要有形民俗文化財																																												
・黒島天領祭・女兒の衣装	昭和30～40年代		金沢市・個人蔵																																												
関連事業：講演会、展示解説、ワークショップ																																															

2 その他事業

(1) 普及事業

ア. 各種行事・講座

○展示解説

- ・ 展覧会毎に実施

○講演会

- ・ 特別展開催にあわせて実施

○館長講演会

○れきはくゼミナール（全9回）

○いしかわ歴史講座（全11回）

○古文書講座（前期2回、後期2回 全4回）

○ワークショップ

- ・ 特別展やミュージアムウィーク開催期間中などに実施

イ. 解説案内・レファレンスサービス

○学校及び一般の団体来館者に対する博物館の概要解説：解説員対応

○常設展示解説：音声ガイド（日英韓中・無料貸出及び携帯電話利用）対応

○学術関係の問い合わせ：学芸員対応

ウ. れきはくメイト

○情報紙「れきはくメイト情報」の配布

- ・ 年6～7回発行 展覧会や募集案内など

○れきはくメイト限定イベント

- ・ 年数回実施 歴史散歩、講習会など

エ. 連携事業

○職場体験、インターンシップの受け入れ

- ・ 中学校から大学までの生徒学生を対象

○初任者研修等の受け入れ

- ・ 県職員（自治研修センター主催）
- ・ 教職員（教育総合研修センター主催）
- ・ 警察官（警察学校主催）
- ・ その他団体・民間企業研修

○県や他団体との連携事業

- ・ 特別展等との連携イベントなどを実施。

○レトロ建築見学会

- ・ 土日祝にボランティアガイドにより見学会を実施。本多の森エリアの拠点

○体験用資料貸出

- ・ 学校や高齢者介護施設等に体験用資料（実物・模型）を貸出

オ. 入館者調査

○通年実施のアンケート調査 一般個人及び団体入館者を対象

カ. 広報

○マスメディア等を活用した広報活動

- ・ 県戦略広報課が持つ広報媒体（新聞、テレビ、ラジオ）の活用
- ・ 当館ホームページ、テレビCMスポットでの広報、案内リーフレット、広報誌「石川れきはく」、ポスター、チラシなどの配布
配布先：県内のマスコミ・情報メディア、公共施設、宿泊施設、社会福祉施設、高齢者介護施設、観光案内所、道の駅、商店、北陸三県の旅行会社、全国の文化施設、主要情報メディアなど

○インターネットを活用した広報活動

- ・ 当館ホームページ、X（旧 Twitter）、Instagram、各種情報サイトに展覧会情報やイベント情報を掲載

○共同セールス

- ・ 当館、県立美術館、国立工芸館、石川四高記念文化交流館及び県立伝統産業工芸館の5館共同で広報宣伝活動を実施
- ・ 北陸三県の教育委員会を対象として、5館の職員が地域を分担して直接訪問又は郵送にて管内小・中学校へのチラシ・パンフレット等の配布を依頼。併せて旅行関連業者へもポスター・パンフレット等を配布
- ・ 体験学習コースなど各施設での実施事業を説明。幅広い活用を呼びかけ

（2）資料整備活用事業

ア. 資料整備

- 石川県の歴史・文化に関わる資料の購入
- 歴史・考古・民俗・美術の各分野資料の寄附を受納
- 館蔵の江戸時代古文書の保存修復を実施
- 館蔵資料のデジタルアーカイブ公開に向けた準備を計画

イ. 収蔵庫整備

- 柳田収蔵庫（能登町）から金沢中央高校収蔵庫へ外部収蔵庫を移転（2ヶ年計画の2年目）
- 本館と金沢中央高校収蔵庫の環境調査（文化財害虫・浮遊菌等測定）を実施

（3）石川の歴史遺産セミナー事業

- 県内外の関係機関及び研究者の協力により石川県の新しい歴史像の創造に向けた歴史的課題に取り組み、博物館の情報発信機能を強化するとともに、地域の人々が身近な歴史遺産に学び、豊かな文化活動ができるよう文化力向上を図る。

日 程	テーマ
5 月	加賀前田家における鷹狩と鷹の献上
11～12月	災害を語り継ぐ人とモノー震災とフィールドワーカー（仮）

3 令和8年度当初予算

(単位：千円)

区 分 項 目	8年度 予算額 (イ)	7年度 予算額 (ロ)	増減額 (イ) - (ロ)	備 考
運 営 費	122,794	127,793	△4,999	管理運営費等
展 示 費	42,091	38,966	3,125	常設展示・特別展示
調査普及費	19,973	18,750	1,223	非常勤職員等
整 備 費	18,045	18,980	△935	施設改修費等
計	202,903	204,489	△1,586	